

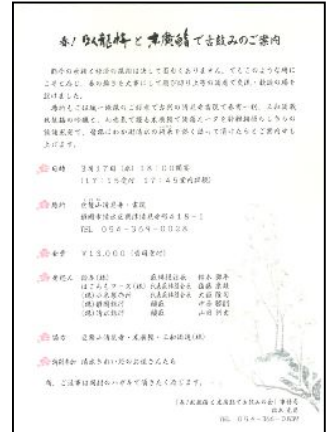
『臥龍梅』 歳便り

平成二十二年卯月



拝啓 ここ静岡では満開の桜が春の嵐に散りかけ始めた今日この頃です。皆様いかがお過ごしでしょうか。

先月の17日にちょっと風情のあるお酒の会を地元で催しました。題して「春！臥龍梅と末廣鮨で舌鼓みの会」。古刹、清見寺の本堂を会場としてお借りし、地元、静岡の有力経済人約60名をお招きして、清水でも有名な末廣鮨さんのお鮨を着に、弊社の臥龍梅をめいっぱい召し上がっていただくというものです。清見寺といえば、わが臥龍梅の命名の謂れともなった徳川家康公お手植えの古木、臥龍梅で知られる東海の名刹です。その歴史は古く、東北の蝦夷に備えて設けられた関所が寺の始めと伝えられ、鎌倉時代中期に開聖上人によって再興され、その後足利尊氏も寺の発展に尽力しております。幼少時代の徳川家康が今川家の人質として捕らえられていたというのは、寺の歴史としてみればつい最近のことです。お客様をご案内して清見寺を訪れるたびに、緑豊かで広大なお庭といい、それ自体が歴史的建造物である重厚で厳かな雰囲気の本堂や書院といい、こちらのお座敷でお酒の会が開けたら素晴らしいだろうと前々から思っておりました。とは言え、何せ戒律の厳しいことで知られる禅宗の、それもかなり位の高いお寺です。とても無理だろうと、願ひする前からあきらめておりました。ところが、先輩の一人が思いもよらずご住職の一條様を紹介してくださり、思い切って願ひしてみたところ、こころよく受けてくださったものです。お酒は昔から禅寺では般若湯と呼ばれて親しまれてきたくらいですので、ひょっとしたら許可してくれるかもしれないと思っておりました。でも、さすがに生臭物は駄目だろうと思って恐る恐る切り出したところ、お鮨を供しても構わないとのこと。（つい二～三十年前まで、山門の内に魚料理や肉料理を持ち込むことはご法度だったそうです。）更に悪乗りして、芸者さんはどうでしょうかと伺うと、何とそれも構わないとの嬉しいご返事。そんな次第で、徳川時代、朝鮮通信使のご一行（今で言えば韓国からの国賓です！）をおもてなした由緒正しき清見寺の本堂で、地元清水の芸者衆をあげての大宴会が実現いたしました。愛山の純米大吟醸、誉富士の純米吟醸等、提供したお酒はどれも大好評で、後で調べてみたら、一人平均三合半ずつ飲み干した計算になりました。念願をかなえてくださったご住職の一條様に改めてこの場を借りて御礼申し上げます。



さて、今月はお待たせしておりました**五百万石 55%の超辛口純米吟醸**、新商品の**大吟醸 50 180mlフラスコ壺**をご案内いたします。どちら様もお早めにお試しください。

春陽の候、皆様にはますますお元気で過ごされんことを。

敬具

平成22年4月吉日

鈴木克昌